

三重津海軍所跡の



3つの地区のひみつにせまる問題が裏面にあるよ!このパンフレットも参考にしなね!



3つの地区のひみつ

み え つ かい ぐん しょ あと
三重津海軍所跡ってなに?

三重津海軍所跡は、江戸時代の終わり頃につくられた佐賀藩の洋式海軍の拠点です。洋式海軍の教育や洋式船の修理・建造などを行っていました。日本初の実用蒸気船「凌風丸」もここでつくられました。

三重津海軍所跡は2013年に国の史跡に指定されました。また、2015年には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産のひとつとして世界遺産に登録されました。

三重津海軍所跡は、この図のように3つの地区に分けることができるよ。



船屋地区ってどんなところ?

- ① 三重津海軍所ができる前から「船屋」という佐賀藩の和船(日本に昔からある船)を管理する施設がありました。
- ② 佐賀藩内で洋式船の操縦を訓練するための「御船手稽古所」という施設がつけられました。

「御船手稽古所」ではどんなことをしていたの?

和船とは動かし方や船の仕組みが違う洋式船を操縦するため、実際に船を動かす人(船乗り)の訓練をしていました。

Point!

船屋地区=三重津海軍所の始まりの場所



裏面で修覆場地区のことを知ろう!

稽古場地区ってどんなところ?

海軍の教育を本格的に行うため、「海軍稽古場」という施設がつけられた場所。

「海軍稽古場」ではどんなことをしていたの?

- 船で海を渡るための知識(航海術)や、土地の大きさなどを正確にはかる「測量」、機械を動かす力をつくる「機関(エンジン)」、洋式船の船づくりなどといった海軍教育が行われました。
- 実際に洋式船に乗っての操縦訓練や大砲をうつ訓練なども行われていました。
- 海軍稽古場では、「長崎海軍伝習所」で洋式船や海軍のことを学んだ佐賀藩の藩士が先生になって海軍教育をしました。

佐賀藩は、江戸幕府がつくった「長崎海軍伝習所」にたくさんの藩士を送って、洋式海軍の知識や技術を学ばせていたよ!

Point!

稽古場地区=海軍の教育と訓練を行った場所



修覆場地区ってどんなところ？

①洋式船を修理するための専用の施設
おんしゅうふくば
「御修覆場(ドライドック)」がつけられた。

②洋式船を修理するために必要な金属の部品をつくる
せいさくば
「製作場」がつけられた。

御修覆場(ドライドック)では どんなことをしていたの？

○佐賀藩の洋式船「電流丸」の船底の銅板をはり替えた記録が残っています。

製作場では どんなことをしていたの？

○交換が必要になった佐賀藩の洋式船「電流丸」のボイラー(蒸気をつくる機械)を組み立てた。
○江戸幕府から依頼されて、「千代田形」という洋式船のボイラーを組み立てた。



この頃の船は木でできていたので、海にすむ生き物に木の部分を食われて、穴が開いてしまわないように、船底に銅板が取り付けられていたんだ!

Point!

修覆場地区=洋式船を修理したり、修理に必要な部品をつくった場所

◎三重津のひみつにせまる問題に挑戦!!

三重津海軍所は、少しずつ役割を増やしながら場所も広げていったんだ。
どんな順番で大きくなったのかな?



① _____ 地区 ➡ ② _____ 地区 ➡ ③ _____ 地区

※海軍所の目の前を流れる早津江川の上流から下流に向かって大きくなっていったよ!

◎確認しよう!~三重津海軍所跡の3つの地区~

Q1) 御船手稽古所があった場所は稽古場地区である。 ○か?×か? ▶

Q2) 御船手稽古所では洋式船を動かすために船乗りの訓練をしていた。 ○か?×か? ▶

Q3) 海軍稽古場では、長崎海軍伝習所で学んだ佐賀藩の藩士が先生となって教えていた。 ○か?×か? ▶

Q4) 「御修覆場」の別の呼び方は? ド ッ ク

Q5) 「御修覆場」では、「電流丸」の船底の銅板をはり替えた記録が残っている。 ○か?×か? ▶

Q6) 洋式船を修理するための金属部品をつくる場所の名前は? 場